

レーザーコンパス

「レーザー研究」の編集について

豊 田 浩 一 *

Koichi TOYODA*

この度レーザー学会誌「レーザー研究」通巻100号を機に難波進先生より編集の仕事を引き継ぐこととなりました。私のような非才なものに、果してこの重責がつとまるかどうか、とにかく皆様方の御助力を得て全力を尽くすしかないとお受けした次第です。どうぞよろしく願いいたします。創刊以来、15年に亘る永い実績の上に立って本誌はレーザー工学の専門誌として確固たる評価を得ています。あと15年もたてばよいよ光の世紀といわれる21世紀です。そういえば、最近、計測、物質処理、エネルギー、医療などすべての分野でレーザーの活躍がみられます。そういった意味で今後、本誌「レーザー研究」の果たす役割はますます重要性を増すと思われまます。

もうかなり以前のことで恐縮ですが、さる会社の社長さんから企業の目標は、良い品を、早く、安く作ることであるとお聞きしたのを記憶しています。あれから日本の経済状態も随分変わりました。また、私も理研という公的な研究機関にいて現在のことは分かりませんが、今でもこの3つのうちのどれが欠けても困るのではないかと考えています。我々が日常的にいろいろ技術的な仕事をする場合でも、他の人よりも早く良い発見やよい結果を得なければオリジナリティーが主張できないわけですし、また出来ることならそれに掛ける費用が少なければそれに越したことはないわけです。ひるがえって、学会誌の編集ということを考えて見ると、勿論学会が扱うのは商品や実験道具ではなくて新し

い知識とか情報という抽象的なものですが、最新の知識を安価にタイミングよく普及する手段であると言う点を考えると同じではないかという感じがします。

しかしそれだけでは、昨今よく言われるような情報過多の時代においてレーザー専門誌としてのアイデンティティーを維持していくのはやはり大変です。そこでもう一つ、これもよく言われることですが読まれる情報誌でなくてはなりません。そのためにこれぞと言えるようなアイデアがあればよいのですが、是非よいお知恵を拝借したいと思います。もちろん、レベルの高い優れた論文や解説記事を書いて頂くということに尽きるのですが、万事忙がしい世界中でそれでも読者を20分でも30分でもひきつける紙面を作るにはどうすればよいか。また違った分野の人たちとのコミュニケーションも大切です。ですから、「レーザー研究」の今後の発展を願うには、あまり狭い専門にとられない平易さも大事です。学会誌のレベルと平易さという正反対のことを考える必要があるということをお願いしたいのです。

さて、最近の「レーザー研究」の現状はどうかと見てみますと、原著論文の投稿が活発で、学会としてはきわめて喜ばしいことです。「レーザー研究」誌が21世紀にむけて光科学技術の最前線を突っ走る情報誌であって欲しいと願っておりますのでご指導のほど宜しく願いいたします。

*理化学研究所 半導体工学研究室、(〒351-01 和光市広沢2-1) レーザー研究、編集委員会委員長

*Riken, the Institute of Physical and Chemical Research(Hirosawa 2-1. Wakoshi. Saitama 351-01.)